



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを2教区（東京は支区）ずつ紹介します。全国の教区・教会・伝道所を覚えて祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」
振替口座 00140-7-293436

祈りの課題

奥羽教区

- 教区内57教会・伝道所ならびに関係学校・関係団体・関係施設の宣教のために。
- 2019年度に教団離脱した木造教会（現・木造キリスト教会）のために。
- 連帯・互助のための教区の働きが伝道につながるように。

北海教区

- 教区内60教会・伝道所ならびに関係学校・関係団体・関係施設の宣教のために。
- コロナの状況で苦しんでいる人々のために。



秋田地区で行われた講壇交換。鷹巣教会の佐伯勲牧師（前列中央）が脇本教会へ。脇本教会の中西絵津子牧師が鷹巣教会に赴いた

北海教区

北海教区めぐみ市場お届け便プロジェクトは、「コロナの状況の中で教会バザーができず、財政に影響が出ているのではないか」「販売品を届け合い、交流を図れないだろうか」という立ち話から始まった、教区を上げての通販型バザーです。

みんながわくわくする楽しい取り組みとなることを願い、話し合いを進めました。まずはカタログを作成して、各教会に発送しました。諸教会の販売する「中標津グーダチーズ」「美瑛の四季ポストカード」といった特産品や手作り品が並びます。

注文に対して各教会から直接商品を発送したり、教区内有志の「お届け便ドライブ」が、商品を受け取り、届け、交流を重ねつつ配送しました。発送、配送を始める日は遊び心を込めて、2021年3月10日「ミート（310）の日」にしました。ミートと発音する meet は英語で「出合い」の意味。同じ発音の meat は「肉」の意味です。この日から第1弾が行われ、8月30日「バザー（830）の日」から第2弾を行いました。

北海教区の連帯は、単に仲良くするとい

奥羽教区

コロナ禍で一時中断を余儀なくされていますが、奥羽教区内の全教会・伝道所は、各地区ごとに行われる講壇交換礼拝に参与其中しています。おらほ（私たち）の牧師と同じように、隣の教会の牧師からも福音を聞きます。このことが、奥羽教区が設立以来唱えている、教区が「一つなる教会」であること、すなわち「教区の教会性」実現の一端を担っていると言えます。

地区によって差はありますが、牧師が他の教会に赴くだけでなく、信徒もそれに同行します。近年、信徒の高齢化のために同



各教会の商品を集めて行われた月寒教会のバザー

うことではありません。行き詰まりや苦しみの中で、つながりの真価は問われるものだと思います。コロナによる不安な状況だからこそ、自分たちだけのことでなく、互いのことを覚え合い、支え合うことのできる機会として、この取り組みには意味があったと思います。無理をすることなく、「楽しさ」「ワクワク」を通して、少しずつ希望を見いだしていくことも大切なのだ、この取り組みを通して教えられました。

（北海教区書記 齋藤開）

行ける人が少なかったり、礼拝後の交流を準備する人手が不足したりで、かつてほど頻繁に講壇交換は行われていません。しかし今も推奨されており、他の教会の様子がよくわかるという声を聞きます。北東地区内では信徒交換だけが行われるケースもありました。行った先で証しの奉仕などもなされ、皆の印象に深く残っています。

秋田には、もてなしとして寒天で固めた料理を出す文化があります。透明で中身が見えるため見目麗しく、バラエティーに富んでいます。定番は、クルミと黒糖を寒天で固めた料理。ゆで卵を刻んで入れたり、ポテトサラダすら寒天で固められていることがあります。お宅ではこんなのを入れているのね？ という会話も定番です。講壇交換礼拝後の愛餐会でも必ず寒天料理の話題が出ますが、漁師町の男鹿教会では寒天の原料テングサを浜で採ってきたというので驚かされました。

こんなふうに礼拝において、また生活において、互いの様子が非常によくうかがえる時となっています。共に笑い共に泣く教会の歩みが、信徒同士の交流においても教区の至るところでなされています。

（前奥羽教区総会議長 飯田敏勝）